

1 単位時間指導事例

8 きょう土を開く

1 単元名 「北上川のうつりかわり」(社会科14時間,総合的な学習の時間5時間,計19時間扱い)

2 単元の目標

- ・ 北上川がなぜつくられたかを考え理解するとともに,当時の工事の様子や現在ある施設(北上大堰や北上川分流施設など)を調べることで,北上川が果たしている役割やそれをつくった人々の苦勞や願いを理解する。

3 本時の指導

(1) 題材名 「90年ほど前の地図と今の地図をくらべよう」(4/19)

(2) 本時の目標

- ・ 今から90年ほど前の地図と現在の地図を比べることにより,洪水を防ぐために新北上川(現在の北上川)がつけられたことを知るとともに,その工事を実現させるために力を尽くした岡田勇(おかだいさみ)について知る。

段階	主な学習活動	指導上の留意点 副読本の活用例	副読本 ページ
つかむ	1 5万分の1の地図を見て,北上川周辺地域で学習する範囲を確認する。 2 大正4年と平成15年の5万分の1の地図を比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">90年ほど前の地図と今の地図をくらべよう。</div>	地図は河川事務所からいただいた,2枚の5万分の1の地図(国土地理院大正4年5月発行と平成15年6月発行)を黒板に張り出して使う。 張り出す地図が手に入らない場合は,副読本の145ページを参考にする。 グループごとに黒板のところに出てきて地図を見させる。	P145
調べる・考える	3 今から90年ほど前の地図と今の地図で違うところはないか話し合う。 (1) 昔の北上川の流れと違うところはないか。 北上川(柳津~飯野川間)広淵沼(現在は干拓され,田んぼになっている) 4 北上川ができたわけ(北上川をつくったわけ)を考える。 5 明治43年の洪水の被害の実態を数字を用いて知らせたり,北上川分流施設の役割等を説明したりする。	気づいたことから考え,発表しながら解決していく方法で授業を進める。なお,北上大堰の見学も想起させて考えさせる。 河南地区の広淵沼の存在については,北上川が氾濫してできたもの,と捉える。 なかなか考えつかない場合は,「飯野川をおそった洪水(明治43年)」の写真をプロジェクターで見せ,ヒントとする。 手に入らない場合は,旧河北町の年表の写真「飯野川をおそった洪水(明治43年)」を見せる。 洪水から命や財産を守るために柳津~飯野川間の北上川を“つくった”ことをおさえさせる。 洪水の被害については,インターネットなどで調べて知らせる。また,北上川分流施設(鵜波洗堰,脇谷閘門)については,河川事務所からの資料を利用する。 関連する写真(分流施設,新北上川の工事,旧柳津の市街地等)をプロジェクターで見せる。 手に入らない場合は,副読本の146ページの写	P162 P146

	6 新北上川（北上川）の工事を 実現させるために力を尽くした岡田 勇（おかだいさみ）について知る。	「石巻の発展につくした人々」を参考にする。	P 1 4 9
まひ とろ めげ るる	7 本時の学習を振り返る。	飯野川橋や北上大堰の架かる北上川が“つくられた川”であることを確認し、本時のまとめとする。 副読本の飯野川可動堰の工事の写真や3本の堰や橋が架かる北上川の写真を見せて確認する。	P 1 4 6
	8 分かったことや感想を書く。	今日学習したところで、分かったことや感想等を書かせる。	